

## 地域医療を担う医師の高齢化について

尾道市医師会 宇田 征史

昨年より尾道市医師会の勤務医部会担当理事になりました尾道市立市民病院外科の宇田征史です。

勤務医部会から何か投稿するようにとの事で、日ごろ感じている地域医療を担う医師の高齢化について考えてみました。具体例の一つとして当院の状況を述べてみますと、私が38歳で尾道市立市民病院に赴任してきました1998年には、50歳以上の医師は当時の院長、副院長、医局長の4人だけで、40歳代が11人で39歳以下の医師が30人程度という状況でした。17年経過しました現在の当院医師の年齢分布は、60歳代5人、50歳代10人、40歳代16人、30歳代11人、初期、後期研修医が5人で、1998年には50歳以上が全体の1/10、40歳以上が1/3であったものが、現在では50歳以上が1/3、40歳以上が2/3と医師の高齢化が顕著となっています。ある程度の高齢化はベテランの医師が増え、医療の質の向上に貢献でき、同一医師の長期間の勤務は地域の住民の安心感につながるのと良い一面もありますが、高齢化が進むとフットワークの低下は否めず救急対応などを積極的にいき、総仕事量の増加している病院の状況を考えますと、今後さら

なる高齢化が進行すれば病院機能の維持自体が厳しい状態になるものと思われます。と、当院の医師の高齢化の実情について述べましたが、これは当院だけの問題ではなく都市部以外での勤務医は言うに及ばず、開業医も含めた高齢化の進行および人員の減少傾向は医療界全体の問題となっている事は皆さまご存じの通りです。

都市部ではないから仕方がない事だと今の状況を嘆くよりも、都市部にはない魅力ある地域、魅力ある病院である事を周知してもらえような特徴を情報発信していく自助努力が大切な事は当たり前のことです。しかし、多くの経験ができて休日勤務、夜間呼び出しのないような勤務体制で労働条件の良い病院など現在の医療体制で望めるはずもありません。医学部地域枠の卒業生や各自自治体の修学支援金を受けている若い医師に期待し、また、地域にも若い医師が循環し地域医療に少しでも興味を持ってもらい継続した勤務につながり、『地域のセーフティネットとしての医療が存続できるようなシステム』の構築にむけて医療界全体で取り組んでいただけて事を微力な一勤務医として願っている今日この頃です。

### 厚生労働省HP内に病床機能報告制度専用ページ開設

厚生労働省が平成26年10月から始まる病床機能報告制度の専用ホームページを開設しました。専用ホームページには、「報告様式」「記入要領」「報告マニュアル」が掲載されます。制度の概要等も掲載されていますので、ご覧下さい。

疑義照会窓口に寄せられた【よくあるご質問】として、病院及び有床診療所のQ & A集が取りまとめられ、掲載されております。内容は順次追加予定ですので、最新のものについて同HPをご確認いただければと存じます。

URL : <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000055891.html>

#### 【疑義照会窓口】

「平成26年度病床機能報告」事務局（受託先：みずほ情報総研株式会社）

E-mail : [byousyoukinou@mizuho-ir.co.jp](mailto:byousyoukinou@mizuho-ir.co.jp)

FAX : 0120-880-124 [24時間受付]

TEL : 0120-110-264 [対応時間：平日9：00～17：00]

